

# 明治期における子どものあそび生活

蛭田道春

## はじめに

明治期、子どものあそびは多くの場合、伝統的遊びであったといわれている。しかし、時代の推移とともに、子どものあそび生活が変化していることがうかがえる。その変化には、いくつかの原因があげられる。

まず、近代学校の設立と普及によって、従来の近世的な子どもの生活時間の変化をあげることができる。例えば、従来の寺子屋の休みは、学校の登校日であったり、そして学校の休みが新たに追加されたりである。また、町村合併による地域組織の変化、地域社会の変化は、子どもの生活環境の変貌をもたらした。さらに、欧米の文化の移入として子どもの読み物や玩具などは、従来の子どもの遊びの仕方を変えた。(例、科学的玩具—自動車、電話、望遠鏡、教育的玩具—標本、積み木、風琴、オルガン、ノート、など)

今までの研究では、学校に関する研究は、学校史、教育通史、府県教育史など、多くなされてきた。しかし、学校外の子どもの生活については、児童史、子どもの歴史<sup>1)</sup>で取り上げられているが、子どもの遊び生活のすべての面で必ずしも考察されているとはいえない。本論文は、その意味で学校外での遊び生活をあげながら、多様な子どものあそび生活の局面を考究するものである。また資料的には、伝記、錦絵、折本、掛け軸などできるだけ子どもの遊び生活に関わるものを取り上げた。

## 1. 小学校の普及による 子どもの生活変化

伝統的遊び生活が小学校教育の代用として教育的役割を果たしていた。

しかし、小学校の普及は、地域共同体の子どもの遊び生活の教育的機能を変えていく働きをもっていた。

たとえば、明治政府の就学奨励策によって、子どもは小学校に就学しなければならぬと、子どもの生活は

地域共同体での生活から学校生活へと移行するようになる。そして、明治6年以降、各府県小学校教則、校則に明記された学校休日は日曜日、紀元節、神武天皇祭日、孝明天皇祭日、天長節、新嘗祭、神嘗祭、鎮守祭、暑中休、歳末歳始休などである。すると地域共同体での年中行事の当日、子どもは学校に出席していなければならぬことになる。つまり、地域共同体での年中行事は学校の設立によってその教育的役割を学校教育にてわたすことになる。

また、明治7年神奈川県布達「就学の督励と学費のため桑茶等栽培奨励のこと」には、学区取締、正副区長、正副戸長に「……学校ノ如キハ風俗を正シ才能ヲ長シ身ヲ立家ヲ興スノ基……」と通達している<sup>2)</sup>。すなわち、当時の知識主義、勤学主義は風俗を正すという意味があり、地域共同体の子ども組の習俗、あそびなどを直す作用がある。

小学読本<明治7年8月改正、文部省刊>巻1、第一に、人に賢い者と愚かなものがあるのは多く学んだかまなばないかによる。それ故、人は6,7歳になったら小学校に入って学べば有用な人間になれる。しかも小学校は業を授ける所であると述べている。1人前になるための教育機能として地域共同体の子ども組、若者組などの教育的役割よりも、学校教育の重要性をあげている。

また、神奈川県では、「違式註違規定」として規定(掟)にそむくことの事項をあげて一冊(小学必要 神奈川県下違式註違 江頭正五郎編纂 明治13年)にまとめている。

例えば、「鶏犬闘ハシメ及ヒ行人へ獣畜等ヲ嚇スル者」(第八十条)「街頭ニテ紙鳶ヲ颯ケ独楽及ヒ籠ヲ回シ又ハ竹馬。根突等ヲ妨ケ及ヒ危険ノ遊戯ヲ為ス者」(第九十二条)「街頭ニテ吟声放歌スル者」(八十四条)の事項をあげているように、鶏闘や、凧あげ、竹馬、などについては迷惑をかけるためであろうか？

明治初期に多くだされた「小学生徒心得」(刊行年不詳 筆者蔵)には、学制に示された意味と同様に、「学文(ママ)を為すは他なし 智を開き身を修め才を

長し人に頼らずして自營の道を立つるにありき<sup>3)</sup>」とあり、学問の必要性をあげている。

明治30年代にも、「少年に怠らず学校へ通ふべし学んで玉をみがくべし」との学びの必要性の方針のもとに、「途中に遊びて昇校におくる者ハ又従て立身出世もおくるるなり」「あしき遊戯ハすべからずあしき友にハ交るべからず己を慎むべし」(「修身教育 善悪之鑑 明治31年7月 著作印刷兼発行者 岡村庄兵衛」)と述べている。

つまり、上記のように学校教育の必要性が上げられることによって、子供の生活は従前に比較して変化せざるをえない。

学校教育が一層普及して、学校体育の教育内容として、伝統的な子供の遊びが取り入れられているが、一層西欧的なものが紹介されてくる。次の資料(新撰男女遊戯法 全 通俗全書第84編 吉田収吉編 発行博文館 明治26年)から遊戯の種類があげられている。少年の遊戯、少女の遊戯にわけて、どれも西欧の遊びを多くあげている。

- ・少年の遊戯一王者の球、Stehball (ステーバール)、Kreisschlagball (クライス、シラグ、バール)、豚逐、Das schlagball zu vieren (ダス、シラグ、バール、ツウ、フィーレン)、猫と鼠、黒奴、狐獲、熊獲、兎獵、
- ・女兒の遊戯一投球、球取、猫と鼠、鶏捕(俗称こをとろ乎)、子探し、鳥城の遊、席取競争

## 2. 伝記にみられる子どもの遊び生活

ここでは、杉本鉞子、和辻哲郎、鏑木清方、宮本常一の伝記、著作から子ども時代の遊びの記述をあげてみる。それらには、作者の子供時代の事柄が具体的に示されている。

①士の娘 杉本鉞子著 大岩美代訳 ちくま文庫 1994年

明治初期であろうか、カルタ、羽根突き、雪合戦、凧揚げ、昔話などの伝統的遊びがあげられている。

- ・子供の間には、古くから伝わった季節季節の遊戯がありました一湿気を含んだあたたかい早春の日、夏の夕あかりのおり、またさわやかなみのりの秋、……冬の夜長のながさみにお煎餅の山に糸つきの針を投げて、つりとった数を争ったり、心を躍らせて競いあった歌留多のあそびなど、どれも、どれもど

れも楽しかったことを憶えております。

- ・中でも、いしは一番覚えがよく素朴な昔話を数限りなく知っていて即座にはなしてくれるものでした。
- ・雪合戦のことは夢中になっておりましたので

- ・お正月になりますと、大人は紋付、袴に威儀を正してお年賀廻り、男の子は凧あげ、女の子は羽根つき、歌留多とりとたのしみ、赤ん坊まで急に二歳になって、お祝いにあずかるのでございました。

②鏑木清方著 「こしかたの記」 中央公論新社 1977年

鏑木清方の生まれたのが明治11年であるので、明治10年代の子どもの遊びが示されている。草草紙、独楽、面子、少年文学、千代紙、切抜き絵、写絵、着せ替え、錦絵、影絵、など、明治初期になっても江戸期の子供の生活の一端がうかがえる。

- ・子供の見る画と云っては、絵草紙屋で売る手遊絵の他にはなく、子供に読ませる本もまるきり無いわけではないが、縁日で売る銅版の豆本ぐらいで、ひらがなで読めてくれればさしあたり草草子の拾い読みをするより手はなかった。

- ・私が入学した時分の私立学校では、まだ寺子屋の風習が抜け切らなくて、登校最初の日には、これから友達になる同級の生徒一同に、近付の印というのであろう。京橋、弥左衛門の松崎で売っていた「おもちゃ煎餅」を持って行く、これを一人分ずつ半紙に包んで、受持の先生が新入生を紹介した上で、これを級中へ分配するのである。

- ・明治時代に東京で少年の時を送った人達は、宵闇が迫る夏の空に、蝙蝠の飛び交う時分、絵草屋に吊るされた数々の美しい錦絵に見惚れて、夜の遅くなるのも知らずに、我を忘れて立ち尽くした昔の思い出を有つてあろう。……明治十年代には、読むにしろ、見るにしろ、子供に与えられたものと云っては別に無く、縁日の灯の海を泳ぎ廻って、神楽堂に二十五座の神楽を見るか、独楽か、面子の遊びの他に、童心を慰めるものも、育くむものも望めなかった。博文館から巖谷小波の「こがね丸」が少年文学、……

- ・観賞向きの品とは別に、千代紙、手遊絵、その他の切抜絵は殆ど堅判に限られているが、こういうのは斜めにした右の隅を例の竹串で挟んで堅形に吊るし下げてある。組立絵、影絵、写し絵、台所道具、衣装の着せ替え、猫のお湯、武者人形、相撲づくし、凧づくし、魚づくし、面づくし、楽屋の役者……

### ③自叙伝の試み 和辻哲郎著 中央公論社 1961年

和辻哲郎は、明治22年生まれで、明治中期頃の少年期をおくっている。まず、江戸時代と変わらない村の生活を述べ、次に祖父の昔話、絵草子などがあげられている。そして、竹馬、根ツ氣、芋虫ころころ、こまつくりなど伝統的な自然とのかかわりのある遊びがあげられている。しかし、近代的な遊びとして、少年世界の読み物、鉛製のめんこ、針がねでできた輪まわしの輪などがのべられている。

- ・子どものわたしの眼に最初に映った村の姿は、この大きな変化を受ける前のもの、即ち江戸時代とあまり変らない村の姿の最後の段階であった。
- ・わたしは明治28年の春に小学校へ上がったのであるから、
- ・そういう時にも祖父はいろいろと昔話をしてくれるのである。
- ・祖父のしてくれた昔話のうちで、子供の時の苦労の話の次に来るのは、黒船の渡来の話である。
- ・わたしがそれ以前から「少年世界」を愛読していたことは確かである。
- ・絵草紙とか子守唄とかいうものの、子供に与える影響力である。……しかもその言葉が母親の声と結びついているところを見ると、どうやらその絵草紙を母親に読んで貰っていたらしい。
- ・わたしたち村の子の前に現はれてくるのは、都会からの土産ものとして時たま貰うことのある一冊の絵草紙、一枚の錦絵であった。
- ・江戸時代以来続いているいろいろな子供の遊びに付随している文句も、大体は同じものが行われていた筈である。だから「芋虫ころころ」とか「子とろ子とろ」とか「ここはどこの細道」とかいう類の遊びの文句は、古くから覚えていたような気がする。
- ・若い叔母たちが何かわたくしに珍しい絵草紙とかかるたとか双六とかを見せ、またわたしに珍しい鞠唄を聞かせてくれるというようなことがあったのであろう。
- ・村の子供の日々の生活は、舶来の文明や舶来の品と

はあまり関係なく、依然として伝統的な、自然との連関の中に根をおろしていたように思う。

- ・子供の遊びとして、竹を馬の脚にする竹馬が出来たのである。……都会では、正月の門松を撤去した時に、松と一緒に立ててあった竹を子供たちが貰って、それで竹馬を作って遊んだという。
- ・竹馬に連関してなつかしく思い出されるのは「根ツ木」である。……「根ツ木」といふは、一尺か一尺五寸位の長さの棒切れの、細い方の先を尖らせて、土の中へ打ち込めるようにしたものである。
- ・竹馬や根ツ木は手製のおもちゃであったが、そのほかのものでも、出来る限りは手作りにした。……鉄のたがの嵌っているこま、太い鉄の針金で出来た輪回しの輪、丸くくりぬいたボール紙に絵紙を貼り付けてあるめんこ、などである。このめんこは、わたしたちはぱっちんと呼んでいた。相手のめんこ目がけて、自分のめんこをその側へ打ちつける時、ぱっちんと音がしたからだろうと思う。わたしたちがぱっちんと区別してめんこと呼んでいたのは、瓦製や鉛製のめんこであった。
- ・こまを作った経験が、それもどんぐりを取って来てこまにした経験が……遥かに多くのことをわたくしに教えてくれたと思う。
- ・子どもの心を興奮させたのは、実際の用に供するための自然物の採集であった。

### ④家卿の家訓 宮本常一著 岩波文庫 1984年

宮本常一(1907-1982)の子ども時代は、明治末期から大正期である。

その頃の地方での子どもの遊び生活では、伝統的遊びがおおかった。しかし、時代の推移とともに、軍艦水雷、消防組、出初式、ゴムまり、などの近代的遊びがあげられている。

以下、それらについて示してみる。

- ・どこの家でも男の子は6、7歳頃から田畑に働く親のそばでそれを見習いはじめ、女の子は子守をはじめ。と同時に国民学校へ行くようになる。後には学校の勉強を大事がるようになって、学校から帰っても父母の仕事の手伝いをする子供は少なくなったけれども、われわれの子供の頃までは、家で遊ばせておいたのでは子供のためにならないと言って、学校から帰るとすぐ山へ行かされた。
- ・私たちの故郷でパチンコと呼び、大阪のあたりで

ペッタとよぶ競技、これを馬糞紙を径一寸五分ほどの円形に切ったものに、武者絵など貼りつけてあるもの、これを土に叩きつけて相手を風のいきおいでひっくりかえしてとりあいをするものだが、……

- やっと歩けるようになり三つにもなると、今度は近所の子供たちが連れて遊んでくれるようになる。集まる場所は宮の森かお寺の前か浜か……たいていきまっている。  
少し大きな女の子たちはこの小さい子供を誰彼なしに仲間に入れてママゴト遊びをする。貝殻が釜にもなれば茶碗にも皿になる。潮が干いて浜が出てあたたかい日には子供たちはこの貝殻をひろいに浜へでる。……
- 7歳頃になるともう女の子と遊ばなくなる。遊んでいると大きい子にはやしたてられるからである。同時に家庭的には老人から母の手に養育の責任が移される。
- 子供の遊びは男の子と女の子とで違って来る。男の子は鬼ごと遊びが多くなる。
- 新しい遊びであろうと思われるものに軍艦水雷というのがある。
- 十歳くらいまでの子供は男女にかかわらず「隣のおばさん」をよくやった。
- これに似たものに天神様の細道がある。これは女の子が多く行った。
- 陣取りも鬼ごとのすすんだものである。
- この陣取りのさらに組織化されたものがドンゴリ合戦である。
- 子供の遊びがほとんど石合戦で、時には血みどろになってかえって来ることもあっても親は文句をいわなかったそうである。
- 鬼あそびの中には捉えるものの外に見出すものがある。草履かくしやカクレゴがこれである。
- 夏の間は大体鬼ごと遊びは少なくてし塩遊びが主であった。
- 独楽も秋がおおかった。これは、村の桶屋に足踏みものろくろがあって、それで作ってもらった。
- 十歳をすぎると球技が多くなる。海辺の子たちは物

を投げる力はよく発達していた。これは海へ石を投げる競争をよくしたからである。

- まり投げはこの石投げの延長で、もとは高く投げるか遠く投げるかを競争したものであるが、私たち幼少の頃から野球が入って来た。
- 冬は凧あげがあった。多くは自分で作ったものであった。
- 三月節句のドンゴリ合戦をする丘で遊んだ。
- お宮の森はよい遊び場で、鬼ごとや勝負ごとのほかに、椎の実をひろったり、椿の実、あけびの実などをとってあそんだ。烏の巣などもよくとりに行ったものである。大きな松や椎やタブや山桜のあるよい森である。
- 私の最も幼い時に見たのは消防組の遊びであった。これは近所の部落の消防組が出初式をやって隊伍堂々で行進し、ポンプを操作して土器落としなどの競技をやって見せたのが強く子供たちを感激させたことによる。上級生たちはが石油箱に車をつけ、竹で作ったポンプをのせ、毎日学校から帰ると、この車を引いて隊伍をととのえて「われわれは西方（郷里の大学の名）消防手……」という歌をうたいつつ歩き、浜辺などへ出て消防の真似ごとをするのである。この仲間へは小さいものは入れなかった。私たちは羨ましく思っていた組であるが、ついに外祖父にせがんで水鉄砲を作ってもらった。当時水鉄砲が大変流行した。
- 郡内の久賀という町へ常陸山、梅ヶ谷の両横綱がやって来て、われわれの村からも見にいった者が多かった。これに驚異の眼を見はった子供たちが早速相撲を始めた。地藏様の松の下の浜に土俵を築いて、そこで毎日相撲をとる。その中にだんだん村中の子供が集まるようになって、横綱から幕下まできまった。唐米袋で化粧まわしを作り、藁で立派な横綱も作った。そして土俵入りから弓取りまでやるのである。
- 女の子の遊びについて見るとそこにはおのづから差があった。ママゴト（バイバイコという）の次には人形遊びがある。人形といっても首ばかりの嫁様人形で、これも祭りなどに売りに来る、それを買ってもらって、布切など親から受け、美しく着せてこれは嫁さん、これは娘などと貝殻のお碗やら木の葉の



皿に御馳走を盛って食べさせる。十歳くらいまでのたのしい遊びであった。

- ・三月の節句には男の子が山で遊ぶのに対して、女の子は多く磯へいった。そして干潟などで貝を掘ったのである。美しきものへの憧れがそういう中に見られる。そしてヤシャラ（きさご）という小さい巻貝は特にだいに拾って来て、その肉を食べた後は、これをとっておいてツメカチ（おはじき）に使った。……十歳位から毬を持ちたがる。……この糸手毬がゴムにかわったのは大正の終わりであった。
- ・手毬と共に行われるのはお手玉である。……このほかにお手合わせとか綾とりなどがあるが……

⑤明治少年回顧 川上澄生著 発行所 明治美術研究所 昭和 19 年

作者の生活経験から、明治期の子供の生活が口絵をいれながら示されている。その内容は以下のとおりである。  
輪まわし、人さらい、縁日、御汁粉屋 12 ヶ月、お碗帽子、ねつき、めんこ  
絵本、唱歌、回向院大相撲、人形芝居、兵隊ごっこ、手風琴、積み木

### 3. 折本にみられる子供の遊び生活

当時の石版刷り、木版刷りの折り本の資料から考察してみる。その内容は、女性の教養、礼儀、女性・子どもの風俗などの内容が多い。

(1) 女芸禮儀 石版刷 明治後期

オサライ、オ針、オタン生日、孝養、茶ノ湯、訪問、登校の途中、三曲合奏、歌の会、楽シキ贈り物、生花、オ伽会

(2) 当世風俗画 年方社中

追羽根、ひな祭、花見、遠足、田植、暑中休暇、海水浴、お細工、観月、7.5.3のお祝い、雪見

(3) 今様婦人画 年方社中 滑稽堂 明治 22 秋山加称

追羽根、桜見、ひな祭、花見、遠足、田植、暑中見舞、海水浴、観月、お細工、御祝（7.5.3）、雪見

(4) 教育少女之家庭 著作兼発行者 奈良健次郎

追羽根、ままごと、生花、こおとろこおとろ、弾琴、手まり、読書、習字

(5) 教育画集之内 女礼式と遊戯 明治 36.12 著作兼発行者 岡村庄兵衛

羽根つきと手毬、学校の帰りと女性徒の遊戯、母に禮儀と途中之禮、踊里神話、汐干狩とお客遊び つみ草とお花見

(6) 教育女禮式図 画作兼発行者 明治 35 年 日比野藤太郎

生花 応接、和歌 茶の湯 裁縫及読書

以上の資料から新しい兵隊ゴッコ、手風琴、などの近代的遊びが見られる。また、学校教育の影響のためか、登校、お誕生日、オサライ、遠足、暑中休暇、海水浴などがあげられているのは注目すべきである。

### 4. 掛け軸、折本、錦絵にみられる子どもの遊び生活

掛け軸、折本から子どもの遊び生活について、紹介してみる。

(1) 掛け軸

①玩弄品行商図 川端玉章<sup>4)</sup> 絹本 97.2 × 142.1

明治 26 年 アメリカ合衆国イリノイ州シカゴでおこなわれた世界博覧会に出品したもの。この博覧会は、コロンブスによる大陸発見 400 年を記念して開催された。当時はアメリカ合衆国ではジャポニズムの時代ともいわれた。この世界博覧会に日本では政府あげて力をいれ東京美術学校の岡倉天心の指導もとで進められた。この作品はそのときの出品物の縮小図である。

伝統的な日本の子供の風俗をあらわしたものである。老人が笛をふいてこどもに知らせている。そこには草草子、お面（ひょっとこなど）、人形、風鈴、金魚鉢などが売られ、その屋台の周りに集まった子どもたちはコマまわしをしている姿が描かれている。日本の文化を紹介することを示すのに苦労したことがうかがえる。

②草園少女之図 八田青翠<sup>5)</sup> 絹本 1336 × 520

女性の子供が藁での細工しているし、子守をしている様子。明治期の子供の服装、子供の労働などがうかがえる。

③子宝図 谷口香嶠<sup>6)</sup> 絹本 1131 × 419

初午の日の光景か？ 少年が緋の着物と学帽。明治期の雰囲気表現されている。

## (2) 折本

明治期に錦絵・折本に、子どもの遊び生活を描いた人物として宮川春汀、小林清親、歌川国周、山本昇雲などをあげることができる。ここでは、山本昇雲の作品を紹介してみる。

①「子供あそび」 山本昇雲画<sup>7)</sup> 12葉 木版画 美術木版絵画出版販売 大黒屋 松木平吉 明治39年  
折本の内容には、なかよくなかよく だるま 兵隊さん 大決戦 お庭 床かざり 大相撲 おまつり 天狗の面 おもちゃの勝負 馬のり 雪戦 である。

子供の生活がよく表現されている。

その他、山本昇雲の作品には、羽子あそび、つるし柿 天狗の面 今すがた(小蝶)などの作品があるので資料として示してみる。

## まとめ

以上、述べてきたように、明治期には、自然を活用した遊び、地域の広場を活用した遊びが多くみられる。しかし、学校教育の普及による遊び、そして、近代的玩具の遊びがみうけられる。

「菊と刀」をあらわした「ルース・ベネダイクト」は次のように、日本の子供の特徴を指摘している。

「日本の子どもたちは誰でも皆おもちゃをもっている。父や母が、また多くの親戚知人が、子供のために人形と、人形に付属する一切の品物を、あるいは手製でつくり、あるいは買い与える。そして貧しい人たちの間では、おもちゃに一銭の費用をもかけない。幼児は人形やそのほかのおもちゃを使って、ままごと遊びや、お嫁さんごっこや、お祭りごっこをして遊ぶ<sup>8)</sup>。」

このように、手製のおもちゃ、ままごと遊び、お祭りごっこなど子供の仲間集団の遊びを指摘しているのは興味深い。

「町や都市においても、子供は乗物の通るところであろうが、通らぬところであろうが、人通りの多い街頭で、傍で見ているひやひやするほど自由奔放に遊んでいる。彼らは特権を与えられた人間である。商家の店先をうろついて大人の話を持ち聞きしたり、石蹴りや手まりつきをしたりする。彼らは村の社に集まり、氏神様に安全に守られながら遊びたわむれる。学校に行くまでは、また学校に行くようになってからのちも二、三年の間は、男の子も女の子のもいっしょになって遊ぶ。しかしながら同性の子供同士、とりわけ同じ年齢の子供同士の間に、最も親密な交わりが結ばれる

場合が多い。」

また、子どもによる自由な遊び、寺社などでの広場での子ども仲間集団の遊びを指摘している。

明治期における子どもの遊び生活は、学校教育の普及によって学校教育に即したものが多くなった。しかし、近世からの自然と関連のある遊びは、まだ根強いのこっていた。

また、欧米から紹介された玩具や遊びは、後の子どもの遊び生活に影響を与えた。

## 註

- 1) 明治百年の児童史 唐沢富太郎著 講談社  
日本の子どもの歴史 久木幸男著 第一法規
- 2) 神奈川県教育史 第8巻
- 3) 「小学生徒心得」 刊行年不詳 筆者蔵
- 4) 川端玉章(1842-1913)  
丸山派の中島来章に学ぶ。後に岡倉天心の要請により、東京美術学校教授になる。  
明治42年川端画学校を創設して、後進の指導にあたる。  
日本画家辞典 人名編 思文閣出版 昭和62年
- 5) 八田青翠(1882-1944)  
明治15年京都に生まれる。のち竹内栖鳳に学ぶ。  
山水花鳥が得意  
<http://www.7b.biglobe.ne.jp/garamdoh/1-2garou/taihaku/denki/seisui.htm> 2012/11/12
- 6) 谷口香嶠(1864-1915)  
画家。京都の人。名は雅秀、通称槌之助。幸野楳嶺門下。歴史画をよくした。大正4年没、52歳 必携 落款事典 落款辞典編集委員会編 2005年2月 第4版発行
- 7) 山本昇雲(1870-1965)  
明治時代から大正・昭和時代に活躍。浮世絵師、石版画家。東陽堂の「風俗画報」の口絵、挿絵に携わる。日本美術院百年史 日本美術院 1989年
- 8) 「菊と刀」ルース・ベネダイクト著 長谷川松治訳 講談社学術文庫



折本（教育少女之家庭、女礼式と遊戯、女芸禮儀、教育唱歌運動図會）



折本（今様婦人画、当世風俗画、教育女禮式図）





①掛軸（川端玉章 玩弄品行商図）





②掛け軸（八田青翠 草園少女之図）



③掛け軸（谷口香嶠 子宝図）





折本 (山本昇雲 子供あそび)



折本 (山本昇雲 子供あそび)



錦絵 (山本昇雲 羽子あそび)



錦絵 (山本昇雲 小蝶)



錦絵 (山本昇雲 柿)